

建屋滞留水の放射性物質濃度の低減について

2018年3月1日

東京電力ホールディングス株式会社

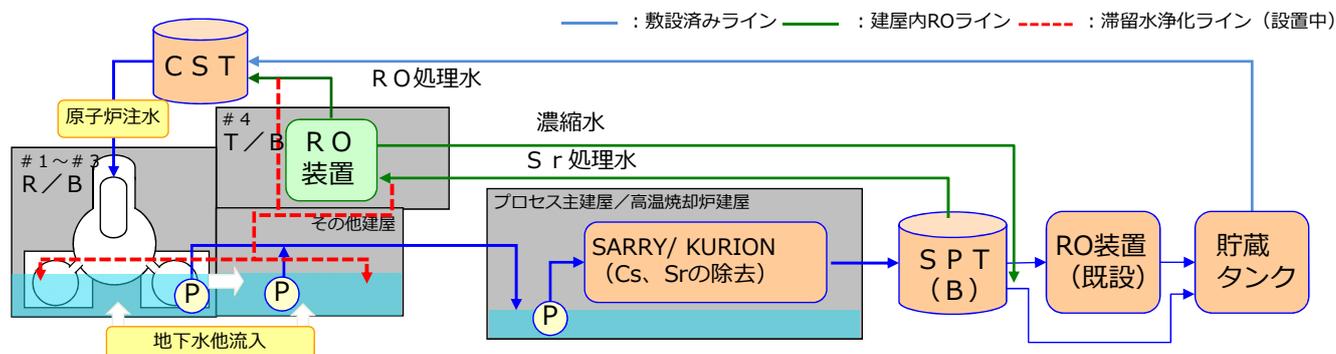
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社



建屋滞留水中の放射性物質の濃度低減

- 地下水他流入量低下に伴い、汚染水処理装置（SARRY等）の処理量も低下してくるため、低下分（処理装置の余剰水）を活用して、処理済水を建屋へ戻す配管等を新規設置。
- まずは、工事が完了した3，4号機側について2018年2月22日より、浄化運転を開始した。
- 1，2号機側についても、2018年3月より工事が完了次第、順次運用を開始し、建屋滞留水の放射能濃度の低減を行うことで、建屋滞留水のリスク低減を図る。



【注】 KURION : セシウム吸着装置、SARRY : 第二セシウム吸着装置、RO装置 : 淡水化装置 (逆浸透膜装置)

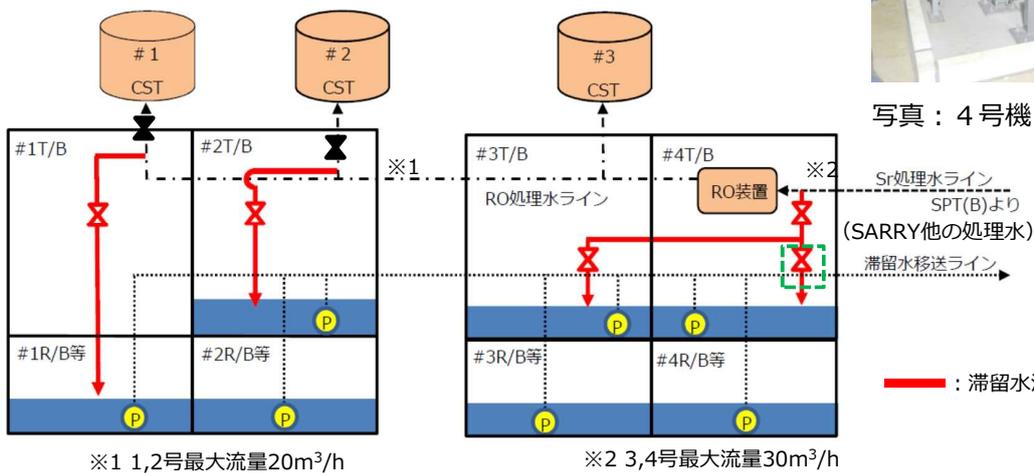
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社



【参考】設備概要について

- 滞留水浄化設備は、建屋内ROのSr処理水移送ラインから分岐し3,4号機のタービン建屋（T/B）へ、またRO処理水ラインから分岐し1号機原子炉建屋（R/B）および2号機T/Bへ、それぞれSARRY他の処理水を直接注水できる設備構成とする。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO